

上海駐在員 コロナ禍における中国入国レポート



新型コロナウイルス感染拡大防止の為、世界各国との往来が厳しく制限されて、1年以上が経過しました。そのような状況の中で4月中旬から約一カ月半（日本での自主隔離、及び上海での強制隔離期間を含む）ホームリーブを利用して日本に一時帰国させていただきました。今回はコロナ禍での海外渡航というある意味貴重な経験をさせていただいたこともあり、現在の中国入国後の厳しい隔離状況（日本から中国への渡航）に焦点を当てて、レポートさせていただきます。

- ・ 隔離期間：入国日の翌日から起算して14日間

搭乗2日前以内に中国大使館指定検査機関でPCR検査及び血清特異性IgM抗体検査のダブル陰性証明書を取得。その後、搭乗前日までに中国大使館ホームページからグリーン健康コード（Health Declaration Certificate）を取得。現在中国便に搭乗するにはこのQRコード取得が必須となっています。

フライト当日、少し早めに3時間前に成田空港に到着しましたが、既に長蛇の列。グリーン健康コード、陰性証明書原本を見せチェックイン手続き完了後、中国入国時に必須である中国税関出入国健康申告登録を済ませました。搭乗便や座席、健康状況等を入力し、出てきた健康状況申告書IDをスクリーンショットで保存。搭乗率は7~8割程度、日本人と中国人は半々の印象で中には防護服を着た乗客も見受けられました。（客室乗務員は全員防護服）

浦東空港到着後、機内で1時間程待機を余儀なくされ、ようやく降機。順路通りに進み、成田で登録した健康状況申告書IDを確認（浦東空港の地上スタッフ、税関職員は全員防護服着用）。その後PCR検査同意書に署名して屋外のプレハ

ブ小屋のような場所で検査（鼻と喉から採取）を受けました。検査終了後は通常通りの税関入国手続きに進み、到着ロビーへ出ます。到着ロビーを出た後は強制的に隔離施設へ移動するバスに乗り乗る導線へと進み、空港入境旅客情報登録を済ませ、また QR コードを取得。浦東空港では上海市内居住者か否かで行き先が分かれ、更に上海市の中でも居住区ごとにエリアが分かれており、私は住居のある長寧区のカウンターへ進み隔離ホテル行きのバスが来るのを待ちました。



浦東空港内、入国審査前に一人ずつ QR や健康状況の確認を受ける



到着ロビーを出た後は居住区により行き先が分かれる



隔離ホテル行きのバス乗車受付カウンター

約 20 名で居住区医療チームの手配したバスに乗り、公安の車に先導されて浦東空港から約 1 時間程度の場所にある隔離ホテルに到着。降車早々バスから取り降ろした手荷物は一カ所に集められて一斉に消毒液噴射されました。ホテル内へは正面からは入れず、暗く湿った裏口から入ることになり、医療スタッフの言われるがままに隔離承諾書へサイン、チェックイン手続きを済ませてようやく部屋へ入れたのは 22 時過ぎでありました。隔離開始後、今まで緑（異常なし・医学管理措置解除済み）であった私の随申码（健康コード）は早速 赤（医学管理措置未解除）に変わり、自分が改めて隔離されていることを実感しました。。

隔離期間中は WeChat でグループチャットが設定され、ルール説明や注意事項等は全てここでやりとりされました。毎日午前と午後に体温を報告し、食事は朝昼晩決まった時間に部屋のドアノブにかけられます。隔離終了 2 日前に PCR 検

査を受け、28日（金曜）20：30 にようやく隔離解除となり、チェックアウト時に隔離健康観察解除告知書を受け取り帰路へ。翌日ようやく私の健康コードも緑に戻り、ひとまずこれで安心して外出することが可能となりました。

5月16日以降、上海市は海外からの入国者に対して14+7ルール（14日の指定ホテル隔離後、更に自宅で7日間隔離）となっており、幸いにも寸前のところで追加の7日間は免れました。参考までに、大連市への入境者は21日の指定ホテル隔離+7日間の自宅隔離（5月21日現在）となっており、ほぼ一カ月は自由に外出できないこととなります。新型コロナウイルス感染流行度合により延長、短縮措置も流動的な状況となっています。

日本～上海間はそう遠くない距離ではありますが、このコロナ禍ではとても遠く感じました。そして只々日中間を自由に往来できる日が早く到来することを祈るばかりです。